

福祉医療協の歴史とこれから ⑦8

衣笠病院のあゆみとこれから

社会福祉法人 日本医療伝道会 総合病院 衣笠病院
事務部長 行谷 俊明

1. はじめに

衣笠病院は、1946年横須賀米海軍司令官デッカー大佐の薦めにより、日本基督教団が日本医療伝道の一端を担うため、旧共済会病院衣笠分院の移管を受けて創設したものです。そして、1947年8月1日に医師4名、看護師14名、薬剤師3名、事務他14名の計35名で日本基督教団衣笠病院（80床）として発足し、診療を開始しました。1952年には社会福祉事業法の施行に伴い財団法人より社会福祉法人となり、無料低額診療事業を行う病院となりました。



創立時の外観

2. 沿革

- 1947年 8月 日本基督教団衣笠病院として開院
(内科・外科・小児科・産婦人科・精神科)
- 1949年 4月 ミニスターベッド
(牧師専用ベッド)創設
- 1948年 7月 財団法人認可
(名称：日本医療伝道会
衣笠病院)
- 1952年 5月 社会福祉法人に組織変更
(名称：社会福祉法人
日本医療伝道会 衣笠病院)
無料低額診療事業開始
- 1958年 131床に増床
- 1960年 1月 午後9時頃に火災発生
(病院の大半を焼失131床)
入院患者14名(うち新生児8名)、面会者1名、
職員(看護師)1名、計16名が死亡
- 1960年 2月 残存建物を整備し診療再開
(57床)
- 1960年 9月 85床に増床
- 1962年 7月 117床に増床
- 1963年 6月 130床に増床

1967年 3月	乳幼児センター開設 (のちの健康管理センター)
1972年 8月	総合病院認可、 人間ドック業務開始
1975年 12月	198床に増床
1976年 3月	245床に増床
1977年 10月	老人医療福祉センター後援会結成 (1986年11月に福祉医療後援会 と改称)
1977年 11月	276床に増床
1982年 3月	ボランティア活動開始 (総合受付、外来待合室を中心に)
1987年 5月	健康管理センター竣工
7月	299床に増床 (リハビリ病棟増設)
1991年 4月	訪問看護及び訪問診療開始
1994年 3月	院内保育園「シオン保育園」開園
9月	「社会福祉法人 日本医療伝道会」 と法人名称を変更
1995年 4月	本館等増改築工事竣工、 パイプオルガン設置
1998年 6月	ホスピス棟開設(20床)
2004年 10月	産科休止
2009年 4月	許可病床数299床から251床に 減床、DPC対象病院に認定
2014年 8月	地域包括ケア病棟(東5)を 開設(38床)
2015年 10月	回復期リハビリテーション病棟 (東4)を開設(33床)
2018年 4月	地域包括ケア病棟(本5)を開設 (53床、計91床)
2022年 3月	許可病床数251床から 198床に減床
2024年 8月	病院創立77周年

3. 病院概要

理事長：古屋修身

病院長：岡村隆一郎

所在地：神奈川県横須賀市小矢部2-23-1

病床数：198床

(DPC病棟50床、地域包括ケア病棟91床、
回復期リハビリテーション病棟33床
緩和ケア病棟20床)

診療科：内科・精神科・神経科・小児科・外科・
(標榜) 整形外科・皮膚科・泌尿器科、婦人科、
眼科・耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、
放射線科、麻酔科

職員数：約450名(2025年4月1日現在)

4. 理念・基本方針

～ 創立の精神 ～

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」

新約聖書・マタイによる福音書 25章40節

この言葉は、イエス・キリストが譬え話を通して弟子たちに語りかけたときの結論です。わたしたちは誰でも弱さや小ささを抱えて生きていますが、それでも、それぞれの小さな手を他者に差し伸べることを求められています。

それは、人間として生きることの困難を自覚する者同士が手を携え生きようとするとき、キリストがこの世で「最も小さい」とされている人々を自分の「兄弟」と呼び、たとえ「小さな業」でも、自分にしてくれたことだと喜ばれるからです。

この聖書の語りかけを「創立の精神」とし、わたしたちは、日々、病む人、高齢の人、支援を必要とする人々に向き合います。そしてこの精神を使命として、地域福祉の向上を目指します。

～ 運営理念 ～

1. キリスト教精神に基づいて患者・家族・地域の方々のために全人医療を行う。
2. 法人内施設と協働し、保健・医療・福祉の一体的連携を目指す。
3. 「来てよかった病院」と言われるように、医の心を持って患者中心の全人医療を実践する。



チャペル・復興記念室

5. 近年の取り組みと今後

衣笠病院グループでは、2015年に10年ビジョンとして「超高齢化を迎える地域に、がん・リハビリテーション・在宅ケアに重点をおいた【日本医療伝道会モデル】を提供する」を掲げ、様々な施策に取り組んでまいりました。重点3本柱のがん領域では、緩和ケア外来や病棟（ホスピス）を充実させ、在宅ケアとの連携も推進いたしました。リハビリテーションではセラピストを増員し、急性期から回復期、維持期までを一体的に提供できる体制を構築いたしました。また、社会福祉法人として、無料低額診療事業にも力を入れており、生活困窮者支援や地域貢献活動にも取り組んでまいりました。

今後もキリスト教精神のもと、社会福祉法人としての役割を中心に「地域とともに歩む病院」、「地域から必要とされる病院」として、当院の役割・機能を明確にし、運営に取り組んでまいります。そして、当院の運営理念である「来てよかった病院」と思ってもらえるよう、安全安心で信頼される衣笠病院であるように努めてまいります。



現在の外観